

20240617 「えーっ！」の瞬間をつくり出す！ 3年生の指導に学ぶ。

先週の木曜日は、本年度第1回目の研究授業でした。

素晴らしい提案をしてくださった3年生の先生方、本当にありがとうございました。

3年生のテーマは「食品ロス」でした。

昨年度は、地元農家をまち探検でお伺いしたときの、捨てられていた規格外野菜との出会いが、こどもの学びのスタートでした。一度「食品ロス」という視点をもったこどもたちは、生活やその後の学びにも同様な視点を向け続けます。

- ・自分たちの生活（給食）はどうか
- ・スーパーマーケットで売れ残った生鮮食料品はどうなるのか

そして、自分たちの身の回りは「食品ロス」であふれていることに気が付くのです。それは、今まで目には見えていたけれど、実は見えていなかったことだったのです。

「何とかしなくちゃ！」

この思いから昨年度の3年生は様々な活動を展開しました。

今年の3年生は、最も身近で日々の学校生活の大きなひとコマである「給食」にフォーカスしました。それも、いきなり残菜調べから入るのではなく、

第1時：理想の給食を考え、関心を高める

第2時：給食についてもっと知っていきたいと思いを膨らませる

第3時：給食を作っている調理士さんの働く姿（動画）から、その高い技能や大変さを知った上で、残菜がたくさんある現実を知る

第4時：「食品ロス」という言葉と出会い、それが様々な所で起きているのではないかと予想する

という過程を通して、より「食品ロス」の問題を自分事として考えられるように工夫しました。

講師の手島先生からもご指導いただいたことですが、この学びの過程で最も重要なポイントとなったのは、第3時の「残菜」（現実）との出会いでした。「残菜」と出会う前にこどもたちは、給食に関する関心を高め、調理士さんが実際に汗水たらして懸命に調理してくださる姿を見ます。

「すごい」「ありがとう」

様々な思いが沸いたことでしょう。

そこに、優に1クラス分はあろうか、それ以上かという量の「残菜」という今まで見えてはいたけれど実は見えていなかった現実を知らされます。その時に、期せずして

「えーっ！」

という声が出ました。

この「えーっ！」こそ、こどもたちが問題と出会った瞬間です。

この瞬間を逃さず、

「どうしたの？ どうして『えーっ！』っていったの？」

と、率直にその気持ちを訊くことが大切だと、手島先生はご指導くださいました。そして、ここをしっかりと捉えてこどもたちに活発に意見交流させるとよいとのことでした。

「信じられない！」

「もったいない！」

「おいしかったのに！」

「せっかくつくってもらったのに、申し訳ない！」

こどもたちは、苦しい気持ちになり、絞り出すように様々な言葉を言うと思います。この「苦しい気持ちになる」というのが、問題を自分事として考え、考え続ける上で最も重要です。「へーっ、そうなんだ！」程度の問題意識では、その後の学びが苦しくなるだけでなく、問題解決のために「動き出そう！」とはなかなかならないものです。

ですから、今回の指導で強烈に「えーっ！」が出たというのは、指導上大成功と言えます。私たち教師に大切なのは、この「えーっ！」をいかに引き出し、どれだけ大事にできるかということです。

視点を変えれば、今回の残菜は3年生教室のある3階だけの量でした。

○では、他の階ではどうなっていたのか？

○毎日、こんなにも給食が残されていたのか？

○五小だけが、残しが多いのか？

少ない学校があるなら何か工夫をしているのか？

○学校以外でこうした「もったいない」は起こっていないのか？

○世界ではどうか？

ただ、現状を嘆くだけでなく、この「給食のこし」を出発点に、関心の視野を広げ、学びをすすめていくという学習の見通しもこどもの中から湧いてきそうです。

授業の中ではふれられませんでしたでしたが、この「残菜」を片付ける人についても考えさせたかったです。それは、誰でもない調理士さんたちです。自分たちが大変な思いをして一生懸命作った給食です。その給食の「のこし」を片付ける、つまり「捨てる」のも実は調理士さんです。

「どんな気持ちで残された給食を見るのだろう。」

「どんな思いで捨てるのだろう。」

と、この事実に対してもしっかり向き合わせたいです。

「そんなことは、思ったこともなかった」子にとって、この事実は、やはり「えーっ！」となるのではないのでしょうか。

この「えーっ！」をつくり出し、そこから問題意識を見出し、高め、学びそのものを主体的にしていくという手法は、あらゆる教科指導に共通します。教師の発問・指示によって誘導される学びでなく、「えーっ！」「おーっ！」とこどもの心が大きく揺れる瞬間をつくり出し、学びそのものがこどもから動き出す授業を日々展開してまいりましょう。